

## 「文理融合の学問—地理学」

成瀬 敏郎

今年もまた、「地理学研究室報告」の編集時期を迎えた。昨年の今ごろ、修士課程の2年生が中心になって第5・6合併号の編集作業が進められていたが、あれから1年、時の経つのは早いものである。この研究室報告もラッキーナンバーである7号目を迎える。この幸運号の節目にあたって地理学研究室の歴史を簡単に振り返ってみたい。

地理学研究室の初代主任教授は白井義彦先生である。農業地理学の泰斗である白井先生によって嬉野キャンパスに地理研究室が創設され、白井先生、藤井宏志先生、吉本剛典先生、それに小生の4名からなる地理学のスタッフが勢ぞろいしたのは今から20年前のことである。白井先生はすでに3年前から、小生は前年に赴任していたので、4人全員が揃ったときは感無量のものがあった。当時、まだ図書館も建っておらず、教育・言語・社会棟の7階建ての建物と学生食堂の2つだけが赤土の上に建っているに過ぎなかった。雨が降ると地面がぬかるんで長靴が必需品であったことが印象に残っている。図書をはじめ研究設備も少なかったのであるが、新しい学問分野を開拓しようとするフロンティア精神だけは旺盛であった。

2代目の藤井宏志先生は世界各地を精力的に歩かれ、国際化が急速に進むわが国にあって、とくにアフリカや南米など発展途上にある国々の地誌学の進展に寄与された。藤井先生の時代にこの「研究室報告」が発足したのである。

現在、白井先生は愛知学院大学に、藤井先生は安田女子大学にそれぞれ転出され、元気で活躍されている。小生のほうは藤井先生の転出と時を同じくして学内に新設された総合学習系異文化理解分野に移籍したのである。研究室から急に2人のスタッフがいなくなったにもかかわらず、地理学を専攻しようと集まってくる学生が多く、吉本先生と新任の南埜 猛先生のお二人が協力して地理学研究室を支えておられる。小生も微力ながらお手伝いをしている。総合学習系のほうも異文化理解としての地理学を専攻する学生が定着しつつあり、年に数回、社会系・総合学習系の地理学専攻生が合同で研究発表会を行なっている。

この7号には、卒業論文7編と修士論文4編、博士論文1編の計12編

が掲載されている。卒業論文は7編とも社会系に属する学生によるものである。人文地理学を選択した秋定君は菅平高原と神戸市しあわせの村のスポーツ施設立地とその利用について、山田君は宮崎県門川町のゴルフ場開発が地域経済に与える影響について研究し、杉山君は国土地理院発行の地図検索システムを開発している。いっぽう、自然地理学を選択した稲津さんは兵庫県氷上盆地に堆積する最終氷期の泥炭に含まれる風成塵から過去の気候変動復元を、菅原君は社台地に発達する黄色土壌と赤色古土壌の初磁化率から過去の気候変動を復元し、戸部さんと松本さんは千種川下流域の氾濫原・三角州の地形発達と上流域で行なわれた「かなな流し」の関係を考察し、沖積層に含まれる鉄滓の存在を明らかにしている。

修士論文は2名が社会系、2名が総合学習系の学生である。社会系の小林氏は中国長江中流域の黄土台地と稲作の起源について考察し、蕨輪氏は福島県矢の原湿原の泥炭に含まれる風成塵から最終間氷期以降のモンスーン変動復元を行なった。総合学習系の塚田氏は中国からわが国へ伝播した三弦の文化的背景と異文化理解について考察し、井上氏はインドタール砂漠、サンバル湖のボーリングコアを分析し、完新世の気候変動復元を行なった。博士論文はバングラデシュからの留学生チョードリ氏が北海道～兵庫県の4地点で掘削したボーリングコアに含まれる風成塵を分析し、東アジアにおける最終間氷期以降のモンスーン変動を研究した。以上の論文のいずれもがアジアモンスーン気候に属する地域を対象としており、現地調査と室内分析を基に、文明論にまで論及した意欲的な研究である。

これらの論文をみると、従来、理学部や文学部あたりで行なわれているような研究を融合あるいは総合したような内容であり、まさに地理学が文理融合の学問であることがわかる。最近、文理融合を目指した学問の必要性が声高になっているが、地理学分野では文理融合という方法論はとくに目新しいことではない。私自身も、総合学習系の昼と夜間(サテライト)、および社会系において地理学をベースにして授業を展開している。

卒業・修了生諸氏のうち、教育現場に復帰する人、本国に帰って教壇に立つ人、教職に就く人、博士課程や修士課程に進学する人、企業に就職する人、皆それぞれに進む道が異なっている。地理学という学問に接した期間は在学中のわずか2～3年にしか過ぎなかったかもしれないが、地理学を勉強し、卒論や修論、博士論文にまとめあげたことをこれからの人生の糧としてほしい。文理融合の学問としての地理学が、今後、いろいろな場面で有用かつ魅力的な学問であることを実感するに違いないからである。